



嘉手納基地で働く様々な職種の日本人従業員にスポットをあてて紹介して行くコーナーです。今回はこの方にお話をうかがいました。



第18施設中隊 運用部 平面修理課  
きんじょう やすかず  
 重機運転手監督者B **金城 安一** さん



## Q1. あなたの職種と仕事内容をお聞かせ下さい。

平面修理課という聞き慣れないかと思いますが主に緑地管理を行っています。この課の仕事は、基地内の飛行場、事務所、宿泊施設や公園などの芝刈りや木の剪定を行っています。また、基地内に点在する戦跡や史跡周りの緑地整備を定期的に行っています。嘉手納基地の約3000平方キロメートルの緑地帯に、14~15人の従業員からなるチームを毎日送り整備

をしています。このチームはバットウィング芝刈機（折りたたみ式で広げると最大約4.5メートルになる「こうもりの翼」のような形をした芝刈機）を牽引するトラクター6台、芝刈機運転手6人、1人乗中型動力芝刈機の運転手4人、手動芝刈機を担当する4~5人で構成されています。

飛行場は16の整備区域にわけられており、区域によっては1日で作業が終わるところや、3日かかる箇所もあります。区域によって異なる雑草の種類や成長の速さなどの特徴を把握し、これまでの経験と知識に則って作業の順番を決め各区域を整備していきます。一番忙しいのは夏季で、梅雨が終わると雑草の成長がとても早く、11月までフル回転で作業が続きます。飛行場の16区域は1ヶ月1回転のペースで整備をしなければ追いつかないほどです。米軍規則により、雑草の高さは常時およそ7インチ（約18cm）から14インチ（約35cm）に保つように定められており、各芝刈機に刈る高さを設定し作業をします。雑草を決められた高さには保つ理由は、野鳥などが隠れにくい高さになっているということで、航空機運用に支障無く、安全に行われるようにするためです。



（写真全て、嘉手納基地広報局：宮良 万亀子 撮影）

私の役職は、この課で働いている日本人従業員の監督官です。毎朝日本人従業員を集め、その日の仕事内容を前日に作成した日程表に沿って指示します。前述の飛行場整備チームのほかに、木の剪定チーム（2チーム各3名）にも指示をしますが、当日の天候や従業員

の体調などにより予定通りに進められないこともあります。その場合は、状況を見て適切な作業ができるよう調整し対応します。定期的な作業や単発の作業など、その日の仕事にかかる労働力、つまり、2人分の仕事内容、区域別配置人数などを毎日担当者に報告します。作業現場の進捗状況を確認したり、今後の作業現場に出向き、配置すべき作業員数、仕事量を査定します。安全対策として、飛行場の作業現場に陥没箇所がないかなど前もって確認し、目印をつけることも重要です。日本人従業員全員が同じ様に仕事ができるよう、また、お互いに助け合えるよう約3ヶ月交代で3チームの組分けをしています。この他、必要な機材、整備部品、道具などを調達することも、私の仕事の一つです。

SpotLIGHT!  
SpotLIGHT!

（次ページへ続く）



(写真: 電子納基地広報局: 宮良 万亀子 撮影)

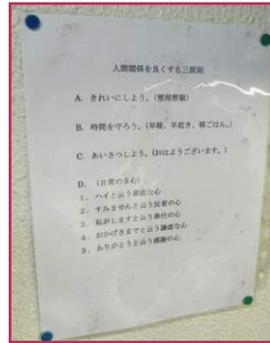
Q2. 職場のスタッフ構成は？

私を含め日本人従業員23人です。空軍兵が1人配属されていますが、別の仕事も兼務しているため、必要に応じて対応してもらっています。毎日いろいろな機械 道具を使用し作業をしているので、2人の技術職日本人従業員が専属でこれらの機械を整備し、安全に作業ができるように支えてくれています。

Q3. この職場に勤めてどのくらいですか？ 16年目です。

Q4. どういう点に仕事のやりがいがありますか？

人間関係を大切にし、従業員の監督管理に配慮しながら仕事を進めていき、お互いの職場環境をより良くして行くことが私のやりがいです。仕事の指示をしながらも活発に意思疎通を図ることを大切にしています。指示を与える時には、丁寧に、心を込めて話しかけることを心掛けています。また、「1. 整理整頓をしよう 2. 時間を守ろう 3. 挨拶をしよう」ということを従業員に心がけてもらっています。これらの基本が出来れば職場内は上手くいくと思っています。



Q5. この仕事の大変さについて。

必要な機材、道具など揃えてもらえれば、より効率的に仕事ができるようになると思います。「これは出来ません。」では仕事は進まないなので、今ある機材で求められた仕事は時間を掛けてでも出来る限りのことをして対応していこうと日々思っています。



Q6. 軍の仕事で感じる相違点は？

民間の仕事では、常に生産性や効率性を重視し効果的に仕事をしていかなければならない、簡単に言えば、「お金を稼がないとご飯が食べられない」わけですが、基地の中ではそここのところの意識に違いがあると感じました。自分自身も含めてですが、軍雇用員であるということに甘えすぎず、スペシャリストだという自覚をもち、高いモチベーションを保ちながら仕事をしていくための工夫が必要だと思います。



Q7. 同じような職種に就こうと考えている方へのアドバイスは？

まず向上心があること、そして素直であることです。素直な人は仕事以外でも様々なことに集中でき、そして成長すると思います。是非、この2つを大事に仕事に取り組んで欲しいと思います。

## 整備部隊ボランティア、あさひ寮の子供たちと交流



第18航空団広報局

2012年6月16日、第18装備品整備中隊のボランティア12人が、南風原町にある沖縄中央育成園あさひ寮を訪れ、子供たちと交流を深めました。あさひ寮には9歳から24歳までの知的障害のある寮生が生活あるいは通所しています。お互いに初対面で最初は緊張した面持ちでしたが、一緒にゲームをすることにより次第に緊張がほぐれていくようでした。

「初めましてじゃんけん」というじゃんけんには負けると相手の肩について最後は大きな一列になっていくといったゲームや、ペアで鬼になってハンカチを落とした別のペアを追いかけるといった「ハンカチ落とし鬼ごっこ」など、共に楽しむうちに次第に打ち解け、交流終盤は大いに盛り上がりました。

ゲームのあとは、訪問部隊からお菓子が配られおやつタイムとなり、子供たちがボランティアへのお礼に歌のプレゼントをしました。稲福浩和施設長より、「米軍関係者の方々には、清掃活動に来ていただいたり、親睦会などに招待していただいたり」と以前より交流があります。今回も貴重な土曜日に訪問していただき大変感謝しております」とボランティアへ謝意を述べました。そして、寮生の代表から英語で書かれた感謝の手紙が渡されました。

最後に全員で記念撮影をし、子供たちの「バイバイ」や隊員の覚えたての「サヨナラ！」が聞こえるなか、今回の交流会が終了しました。ボランティアからは、「子供たちと接することができてとても楽しかった。すばらしい経験になりました。ぜひもう一度訪問したい。」と要望する声が聞かれました。

(写真提供：第18装備品整備中隊)



## 沖縄商工会議所の懇親会

第18航空団広報局

6月15日、沖縄商工会議所第74回通常議員総会の終了後、懇親会が開かれ、商工会議所会員、沖縄市、沖縄県、日本政府の行政関係者、他団体代表者およそ100名が集い懇親を深めました。沖縄市近隣に基地のある米軍関係者も招待され、第18航空団を代表し、第18航空団副司令官チャールズB. マクダニエル大佐夫妻、第18施設群司令官ゲーリーJ. シュナイダー大佐夫妻が出席しました。両司令官は沖縄へ赴任してまだ日も浅く、このような沖縄側主催の行事に出席するのは初めてで、地域の代表者と先ず名刺交換を行い、日本のビジネス文化を体験していました。参加者の多くが着用していた「KARIYUSHI WEAR」にも注目し、沖縄独特の服装規定に感心しきりでした。

(写真提供：沖縄商工会議所)



## 嘉手納町議会基地対策特別委員会 嘉手納基地内を視察

第18航空団広報局

第18航空団広報局は、地域住民の方々に嘉手納基地の任務についての理解を深めていただき、対話の機会を得るという趣旨で、近隣の自治体議会議員 基地対策課の方々を対象とした基地内視察プログラムを企画しました。5月31日（木曜日）嘉手納町議会基地対策特別委員会の議員の方々の訪問がありました。

広報局長アンダーソン少佐より「私たちは沖縄にゲストとして滞在しており、礼儀正しい地元の人々との出会いに感謝しています。日々任務を遂行するにあたり、地域の皆様との関係は大

変重要です。議員の皆様はその地域の代表者であり、ぜひ今後も交流を深めていきたいと思っております」と挨拶しました。その後、広報局渉外官がスライドを用いて、嘉手納基地の主力部隊第18航空団やパートナー部隊の組織、その他活動について概況説明を行いました。参加者はバスで移動、車上から基地内の主要施設の説明を受け、飛行場周辺や史跡、特に第3ゲート近くの掩蔽壕などをまわり、最後に将校クラブで昼食をとりました。視察中、アンダーソン少佐との質疑応答もあり、議員から、地域の視点に立った要望や提案がだされました。アンダーソン少佐もこのように地域の代表者から直接意



見を聞けることはとても有意義なことであると、視察へ参加した議員の方々へお礼を述べました。

Skoshi Kadena, published by 18th Wing Public Affairs, Kadena Air Base Kadena Web Site: <http://www.kadena.af.mil> E-mail: [18wg.pa@kadena.af.mil](mailto:18wg.pa@kadena.af.mil)



Chief, 18th Wing Public Affairs Office: Major Christopher Anderson

Editors: Ms. Takako Fukuhara, Mr. Hideaki Sakihama, Ms. Keiko Toma, Ms. Sayaka Kawatake, Ms. Makiko Miyara and Ms. Derrice Daniels  
Graphic Designer: Ms. Naoko Shimoji

The Skoshi Kadena is published monthly and is an authorized publication by 18th Wing Public Affairs in Kadena Air Base. Contents of the Skoshi Kadena are not necessarily the official views of or endorsed by the U.S. Government, the Department of Defense, or the Department of the Air Force. The editorial content is edited, prepared, and provided by the 18th Wing Public Affairs Office. All photographs are Air Force photographs unless otherwise indicated. Contents may not be reproduced, distributed, or translated without the prior written permission from the 18th Wing Public Affairs Office.

『スコシカデナ』は、嘉手納基地第18航空団広報局より毎月発行されている出版物です。編集内容は、第18航空団広報局により編集、準備、提供されています。掲載される内容は、米国防省または米空軍の見解・承認を必ずしも反映するものではありません。第18航空団広報局の書面による事前許可なしに、掲載写真や記事の無断転載を禁止します。